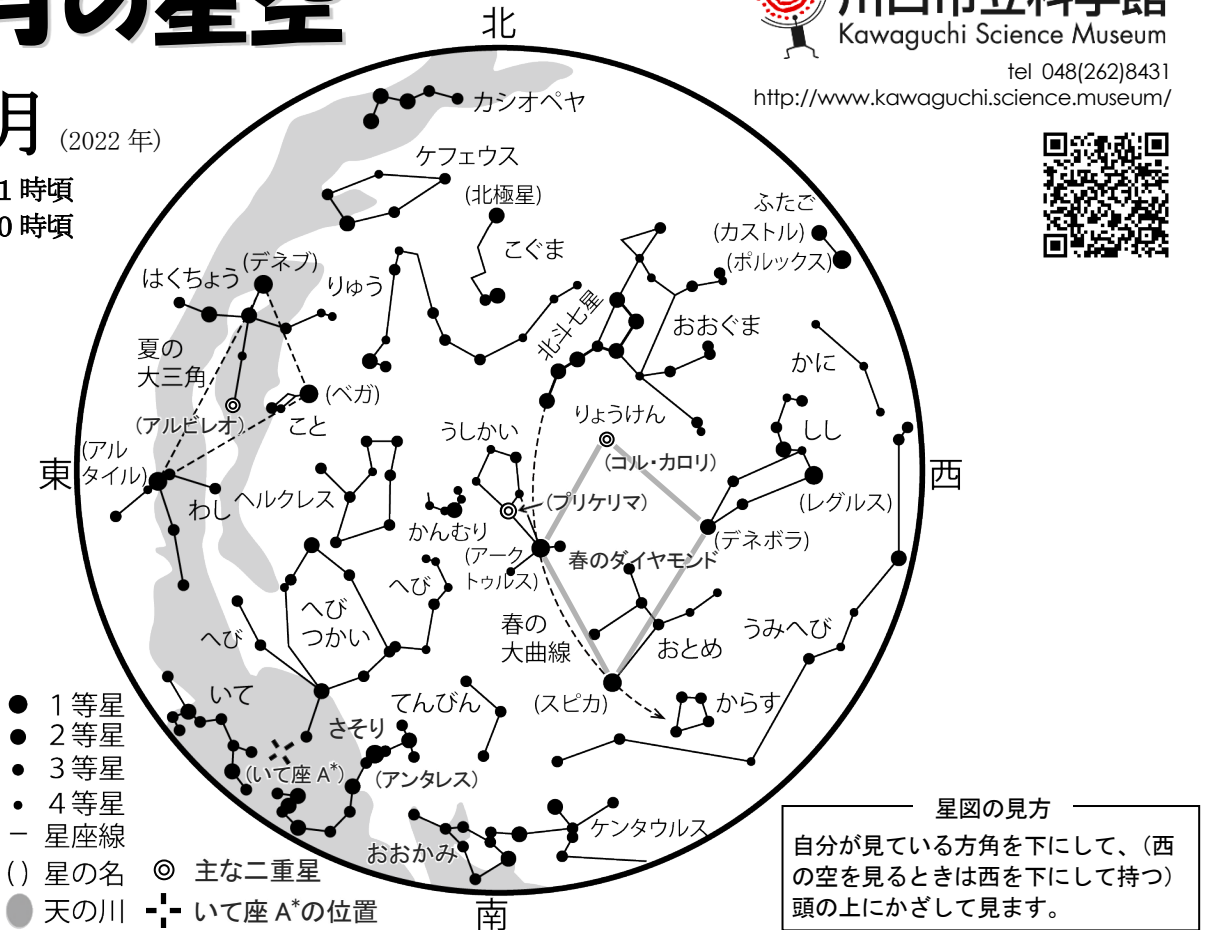


# 今月の星空

6月 (2022年)

上旬 21 時頃  
下旬 20 時頃



月 齢 ①上弦 7日、○満月 14日、②下弦 21日、●新月 29日

## 惑星情報

金星 日の出前 東(おひつじ→おうし座 -4等) 火星 日の出前 東(うお→くじら→うお座 1等)  
木星 日の出前 南東(うお→くじら座 -2等) 土星 日の出前 南(やぎ座 1等)

## ★夏至の太陽とペアの星たち

21日は太陽が一年のうちで最も高く昇る夏至。その南中高度<sup>※1</sup>は、川口市(北緯35.8度)では77.6度となります。同時に、日の入りが19時頃と遅いこの時期、宵の空でいち早く見えてくる星は、南の空でオレンジ色の輝きを放つうしかい座のアークトゥルス(0等)です。中旬の20時半頃には南中し、その高さは約73度と見上げるほどです。その下方にある、白く輝くおとめ座のスピカ(1等)と一対で、春の夫婦星と呼ばれることもあります。

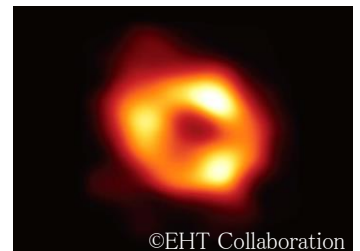
また、天体自身がペアになっている二重星<sup>※2</sup>は望遠鏡での良い観測対象です。その代表格は、色の対比が美しいはくちょう座のアルビレオ(3等)。その他、春の星座の中で明るい二重星は、うしかい座のプリケリマ(2等) やりょうけん座の科尔・カロリ(3等) などがあります。

※1…太陽などの天体が真南にきて、最も高く昇ったときの地平線との間の角度。地平線を0度とし、真上が90度。

※2…見かけ上、非常に接近している2つの星のこと。主に肉眼では1つに見えるが、望遠鏡などで見ると分かれて見える。

## ★天文トピック～天の川の中心にあるブラックホールが見えた！～

5月12日、「イベント・ホライズン・テレスコープ(EHT)」により観測された、天の川銀河の中心にあるブラックホール、いて座A\*(エースター)の画像(右図)が公開されました(天体の位置は星図参照)。これは、アインシュタインの一般相対性理論により導かれる「ブラックホール」の存在を示す直接的な証拠であり、M87銀河のブラックホールに次ぐ2例目の快挙です。かねてより、天の川銀河の中心を公転運動する恒星の観測から、中心には太陽の400万倍もの質量を持つコンパクトな天体(いて座A\*)が存在することが明らかになっていました(2020年ノーベル物理学賞を受賞)。今回の成果は、いて座A\*がブラックホールであることを決定付けたこととなります。2万7千光年のかなたとは言え、私たちの住む身近な天の川銀河において、光さえも抜け出せない究極の天体、ブラックホールが現実のものとなりました。



©EHT Collaboration

図 天の川銀河の中心にあるブラックホール、いて座A\*